

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。
-----	---

●学習内容

1 学期	1 0 時間	2 学期	1 6 時間	3 学期	9 時間
第 1 章 随筆	3	第 4 章 和歌	4	第 7 章 随筆	4
1 『徒然草』		1 『古今和歌集』		1 『おくのほそ道』	
第 2 章 漢詩	3	2 『新古今和歌集』		第 8 章 近代小説	5
1 中国の漢詩		第 5 章 論語	6	1 『葉桜と魔笛』(太宰治)	
第 3 章 近代小説	4	1 『論語』			
1 『側転と三夏』(武田綾乃)		第 6 章 近代小説	6		
		1 『沖縄の手記から』(田宮虎彦)			

教材
教科書:「新編 言語文化」数研出版 「新編 言語文化」準拠ワーク」数研出版 自主作成教材(プリント)

授業の進め方
国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指して、言葉による見方・考え方を働かせて様々な言語活動を行う。 具体的には、教科書で扱う様々な教材をもとに、文章読解やレポート作成などの「読む」「書く」活動や、グループでの話し合いなどの「話す」「聞く」活動を行っている。また、定期考査を通して定着度を測る。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	活用できる (できる)	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
	習得する (わかる)	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み精度	

単元別 評価規準

第1章 随筆

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	用言について理解し、辞書など引きながら学習することができる。	本文の大筋を捉え、人物の心情の推測や、表現の効果を理解できる。	本文の大筋を捉え、人物の心情の推測や、表現の効果を理解した成果を踏まえ、話し合い・レポートで表現できる。
	習得する (わかる)	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えを持っている。	学習課題を踏まえて、粘り強く取り組んでいる。

第2章 漢詩

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	漢詩全体の意味や、漢詩の形式、押韻について理解することができる。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	由来について諸説ある漢語の語源説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組むことができる。
	習得する (わかる)	漢詩全体の意味や、漢詩の形式、押韻についてわかる。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈ができる。	由来について諸説ある漢語の語源説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。

第3章 近代小説

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	作品に登場する「側転」「三夏」という言葉の意味を文脈の中で理解することができる。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。	進んで題名の意味を解釈し、学習課題に沿って、粘り強く、話し合い・レポートで表現できる。
	習得する (わかる)	文章の意味は、文脈の中で形成されることがわかる。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について理解している。	学習課題を踏まえて、周囲と強調しながら話し合い・レポートに取り組んでいる。

第4章 和歌

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	和歌修辞とその効果について、理解できている。	題材の調べ学習ができており、和歌の特色を伝えようとしている。	学習課題を踏まえて、粘り強く、話し合い・レポートで表現できる。
	習得する (わかる)	本歌取りや見立てなど、日本の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果がわかる。	「書くこと」において、自分の知識や体験から適切な題材を決め、集めた材料の良さや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	好きな和歌について積極的に調べ、学習課題に沿って、粘り強く取り組んでいる。

第5章 論語

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	『論語』の成立過程や文法を理解できている。	『論語』の教えを理解し、自分の生き方と比較できる。	学習課題を踏まえて、粘り強く、話し合い・レポートで表現できる。
	習得する (わかる)	古代中国や日本の言語文化の特質を踏まえて、『論語』の成立過程や文法がわかる。	『論語』の教えを理解する。	漢文から派生した日本の文化を調べたり、実生活につながるものを考えたり、文化のつながりを知る。

第6章 近代小説

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	作品が伝えていることを、文脈の中で理解することができている。	作品が成立した背景を踏まえたうえで、作品が伝える内容を理解することができている。	学習課題に沿って、粘り強く、話し合い・レポートで表現しようとしている。
	習得する (わかる)	文章の意味は、文脈の中で形成されることがわかる。	「読むこと」において、作品と文章の成立した背景の関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	積極的に作品内容を解釈し、学習課題に取り組んでいる。

第7章 随筆

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	辞書など引きながら、本文を理解し、現代語訳ができる。	本文中の句について解釈をしたうえで、身近なものと比較することができる。	学習課題を踏まえて、内容がまとめられている。
	習得する (わかる)	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	本文中の句について粘り強く解釈したうえで、学習課題に沿って、話し合い・レポートに取り組んでいる。

第8章 近代小説

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	「葉桜」「魔笛」という言葉が持つ語感を理解できている。	「葉桜と魔笛」という題名が持つ意味を理解したうえで、自らの見解を提示することができている。	学習課題を踏まえて、内容がまとめられている。
	習得する (わかる)	日本の言語文化に特徴的な語句の学習量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語意を優にしている。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について理解している。	進んで題名の意味を理解し、学習課題に沿って、話し合い・レポートに取り組んでいる。